

1 学校教育目標	
(1) 社会規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立 (2) 確かな学力の育成 (3) 個性を伸ばす進路指導とキャリア教育の充実 (4) 心の教育の充実	(5) 健康・安全教育の徹底と学習環境整備の徹底 (6) 部活動の活性化と地域に根ざした学校行事の推進 (7) 地域に信頼される特色ある学校づくり

2 本年度の重点目標
<p>(1) 社会規範意識の醸成と豊かな情操・道徳心の育成</p> <p>ア 生徒会活動の活性化による「あいさつ、服装、時間の管理、交通マナー」の向上等、主体的に自己改革に取り組む態度の育成に努める。</p> <p>イ 他者への思いやりの心や人権を尊重する心を育むなど、心の教育の充実に努めるとともに、特に、学級における仲間づくりに配慮した教育活動を推進する。</p> <p>(2) 高い目標の進路実現を図る指導体制とキャリア教育の充実</p> <p>ア 習熟度別指導や個別指導等による個に応じた指導の工夫・改善を進め、学習習慣の確立を図り、進路・適性等に応じた能力の向上と技術を身に付けさせる。</p> <p>イ 進路研究、進路講演会の充実を図り、主体的に進路を選択、決定できる能力や勤労観・職業観を育むキャリア教育を推進する。</p> <p>ウ 3年間を見据えた進路指導体制の確立に努める。特に、二者面談、三者面談を充実させるなど、年間指導計画のもと継続的な進路指導を推進する。</p> <p>(3) 全人教育としての部活動の振興</p> <p>(4) 学科・コースの特色を町づくりに活かすとともに、防災型コミュニティスクールとして家庭・地域が三位一体となるシステムの構築を図る。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	学科・コースの指導の充実 部活動の充実	志願者昨年度比5%増、各種大会での実績向上 部活動加入率90%以上	HP、説明会、体験入学等の充実、資格取得の推進、教育課程の見直し 顧問の積極的な指導、リーダー研修	B	専門分野の各種大会での生徒の活躍が顕著であった。教育課程の見直しも行った。文化部活動は盛んであったが、運動部の活性化に課題がある。
	開かれた学校づくり	家庭・地域との連携 学校の公開と情報発信	地域行事への参加、保護者会出席率の向上 学校行事の公開、学校説明会4回実施	ボランティア活動の奨励、面談の充実、安心メールの活用 毎日学校HPを更新、広報紙を月に1回発行、公開授業の実施	A	育友会総会出席率は72.3%と昨年を若干下回ったが、育友会の一人一役運動はより多くの保護者が来校する機会となった。体育祭や文化祭には、例年以上に多くの来客があり地域との連携が図れた。
学力向上	授業力の向上	主体的・対話的な学びを実現する授業作り	ICT活用・AL型授業を9割の教員が実践	年間2回の授業研究週間の実施、授業改善研修	B	ICT活用・AL型授業の実践者、機器の活用も増えている。研究授業も熱心に行われた。今後はスーパーティーチャー等も積極的に活用したい。
	基礎学力の向上	就職・進学に向けた基礎学力の保障 英語力の向上	診断テストD3ゾーン生徒を2割削減 CAN-DOリストを8割の生徒が達成する	学力分析会の実施、マナトレクラスマッチの実施、授業の充実、ICTの活用、英語検定受験の奨励・指導による意欲の喚起	B	分析会と学びの森の取組により基礎学力定着状況を把握し対応することができた。学期に1回のマナトレクラスマッチにより意欲を高めることができた。英検受験者は増加したが、合格率は課題。
	自学力の育成	生徒の学習習慣の定着	宅習時間の右肩上がりの上昇	学期1回の宅習時間調査の実施と学習指導への反映	B	調査方法を見直し、データが活用し易くなった。2学期までは2、3年生で宅習時間が増加した。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の向上 体験活動の充実 進路情報の提供	早期の進路目標の確立 職業観・勤労観の育成 タイムリーな情報提供	進路講演会や模擬授業の実施 インターンシップ等の実施 進路通信発行と閲覧資料の充実	A	インターンシップ、工場見学、大学訪問等は、将来の進路を具体的に考える機会となった。進路だよりの発行や閲覧資料の充実は計画的に行うことができた。更に行事の充実と精選を図っていきたい。

	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた進学支援体制の充実	大学進学率20%以上 国公立大学合格者5名以上	教科や学年部と連携した個別サポート体制による入試対策	A	丁寧な個別指導により、目標値には届かなかったものの、熊本大学をはじめ国公立大に4名合格するなど、昨年度を上回る成果をあげることができた。高い進路目標を持たせる工夫をしていきたい。
	就職指導の充実	県内企業就職率を向上 就職意欲の高揚 内定者への指導	県内就職率60%以上、就職希望者内定率100%、早期離職防止	ガイダンスや面談において県内企業への就職推進を強化 内定者フォローアップ面談	A	キャリアサポーターによる早期面談の実施と、県内企業求人増加で、就職内定率は100%（電子機械科では15年連続）を達成できた。県内企業就職率も68%で目標を上回った。
生徒指導	規範意識の醸成	基本的な生活習慣の確立と規律ある行動	挨拶の励行、特別指導・遅刻を昨年度比3割減、情報モラル教育の充実	全職員による生徒指導、登校指導 服装頭髪指導の徹底、情報の共有	C	特別指導件数は昨年より減少した。反面、遅刻は特に2学期後半から増加した。指導方法の改善を検討したい。
	交通安全意識の高揚	交通マナーの向上 交通事故違反防止	自転車二重ロック100%、重大事故・違反0件	安全集会、講話、講習会の充実 警察との連携	B	重大事故等は起きていないが、特にバイクの違反や事故が多く、自損事故が多かった。交通マナーの向上等、更に指導に力を入れていきたい。
	自主性・社会性の育成	生徒会、委員会活動の充実	生徒会中心の行事運営、ボランティア活動への積極的参加	生徒主体の全校朝礼を毎月実施 体育祭、龍鳳祭の充実、挨拶運動	A	昨年からはじめた生徒主体の全校朝礼は、内容も充実していた。体育祭、龍鳳祭等の学校行事でも生徒の活発な活動が見られた。
人権教育の推進	人権意識の高揚	人権問題解決に向けた実践力を持つ生徒・職員の育成	職員研修の充実、あらゆる教育機会を利用した人権教育の充実	校外への研修への全職員の参加 人権教育LHRの充実 人権週間等の行事の充実	B	本年も多く職員が校外への研修に積極的に参加できた。生徒がより主体的に行動できるように、人権教育LHRを充実させたい。
	命を大切に する心の育成	自他の生命と人権を尊重する心の育成	自他の生命を大切に、お互いを尊重しようとする集団の育成	人権教育講演会の実施、人権関係のイベントを活用、生徒一人ひとりを大事にする教育実践	B	特別な支援を必要とする生徒への個別の支援は学年や係を中心に丁寧に行った。人権講演会の更なる内容充実に努めたい。
いじめの防止等	いじめの未然防止	他人を思いやり、いじめを許さない態度の育成	いじめを自らの問題としてとらえ、解決しようとする生徒の育成	心のきずなを深める月間等の取組の充実、生徒会いじめ撲滅宣言、いじめ事案への職員の毅然とした対応	B	生徒会によるいじめ撲滅宣言や全校朝礼での人権啓発活動など、生徒の主体的な活動が充実してきた。未然防止に向け、更に意識啓発に取り組みたい。
	指導体制の確立	いじめ防止対策委員会を核とした組織的取組	いじめの早期発見と早期的確な対応 いじめ事案の解消	アンケート調査と職員間の情報共有、各校務分掌・保護者・関係機関との連携	A	朝読書や「あゆみ」の発行の他、各学年部、校内組織やSCとの連携等に力を入れ、情報共有と早期対応に努めた。
地域連携(コミュニティ・スクール等)	防災型コミュニティ・スクールの立ち上げ	防災型コミュニティ・スクールの運営方針の策定及び体制の整備	学校運営協議会を年4回実施 防災マニュアルの作成 合同避難訓練の実施	学校運営協議会の協議をもとに地域と連携した防災マニュアルの作成 合同避難訓練の計画及び実施	B	年3回学校運営協議会を実施し、避難所運営マニュアル案の提示や来年度の合同避難訓練実施の方針を決定することができた。地域の意見も多く伺うことができた。
特別支援教育	的確な個別の支援	基礎的環境整備と合理的配慮の提供	迅速な実態把握と校内支援体制の充実	個別の支援計画・指導計画の作成と校内委員会の実施	B	諸計画については、全員分作成までには至らなかったが、担任を中心に家庭と丁寧に連携し、実態把握に努めた。定期的に校内委員会を開催し、情報を共有できた。
環境保健	健康管理・健康教育の充実	自己管理意識の高揚	基本的な生活習慣の確立、自己管理能力の育成、正しい知識と行動力の育成	保健だよりの発行 個別面談の実施 講演会実施・感想書き	A	個別面談による実態把握と保健指導、保健だよりの発行や講演会等の啓発活動により、治療率の向上等自己管理意識の高揚が図れた。今後も継続して指導していきたい。
	環境整備	環境衛生・美化に対する実践力の育成、安全管理	ゴミ処理・掃除習慣確立 設備等に起因する事故0	全職員による掃除・ゴミ処理指導 安全点検実施、改善・報告	B	掃除マニュアルを作り活用する取組を行った。今後も職員全員による継続した指導を行っていく。設備等に起因する事故はなかった。

#### 4 学校関係者評価

体育祭や文化祭等での生徒の意欲的な取組、また、特に文化系部活動や芸術コース生徒の各種大会での活躍等、生徒の主体的な活動や多様な学科・コースを有する本校の特色を活かした活動、生徒の個性を伸ばす教育に関しては好評であった。ただし、それらに加え本校の教育内容等についても更に積極的に地域に発信していく事が必要との意見が出された。また、授業づくりや生徒会・部活動等での中学校との連携を更に推進して欲しいとの要望もあった。反面、あいさつの励行や遅刻者の削減、交通マナーの向上等については、更なる改善が必要との評価。地域社会や行政、幼小中高大の連携を図り、生徒募集につなげて欲しいと、地域の拠点校としての本校への期待が大きいことを感じさせる意見を数多くいただいた。

#### 5 総合評価

社会規範意識の醸成や基本的生活習慣の確立の面では、更に改善が必要である。普段の生徒の姿が、地域社会からより信頼されるものとなるような取組が必要である。学校の教育活動等、学校情報の発信については、様々な機会を活用しできる限りの取組を行って来たつもりであったが、より積極的、効果的な広報活動を行っていかねばならない。学校の教育目標の周知や特色ある学校づくりについては、高い評価が得られた。学科・コースの特色を活かし、生徒の個性を伸ばし、更なる高い進路目標の実現に努めたい。

平成30年度後期選抜の出願者は、若干ではあるが昨年度を上回ることができた。ただし、まだ定員を満たしていない状況である。前述のような課題を改善し、更なる学校の活性化に取り組んでいかねばならない。

#### 6 次年度への課題・改善方策

学力向上の取組で特に授業力の向上については、個々の職員の意識も高まり授業改善に努めているが、次年度は小中学校との連携を推進し、相互の授業見学や研究会を積極的に行い、UDの視点に立った授業の実践にも努めたい。

社会規範意識の醸成の面では、まだまだ課題もある。学校改革を推進し、生徒と向き合う時間の確保に努めるなど、より積極的に生徒と関わり、組織的に課題解決に向けて取り組み、生徒の姿が学校の地域社会からの信頼につながるようにしたい。運動部活動の活性化も大きな課題である。部活動の精選や生徒への啓発活動を行い、職員の積極的な指導により活性化を図りたい。

学校情報の発信については、より実効的な方法を検討・模索し、更に力を入れて取り組み、志願者の増加につなげたい。

様々な取組を行うことが職員の負担感の増加につながることはないよう、校内組織の見直し、校務の効率化、情報の共有化の推進、職場環境の整備に努めたい。